千葉に特殊塗装新工場

光栄プロテック12日稼働

光栄プロテック（大阪府枚方市、三田雅憲社長）は12日に千葉県白井市で、6㍍の建築向け長尺金属部材の特殊塗装に対応する新工場を稼働する。総投資額は2億2000万円。近隣の既存工場と合わせた生産能力は従来比約2倍となる見込み。百都圏の外資系ホテルやビル向けに「硫化いぶし」「ピアノ調」といった高級感のある仕上げを施す塗装の需要が増えるのに対応する。2023年3月期売上高は21年同期比約50％増の3億円以上を目指す。

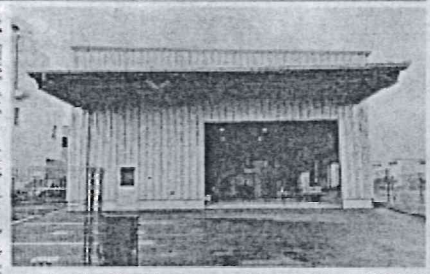
長尺金属部材に対応

新工場「千葉白井第2工場」は同市にある白井工業団地内の既存工場から400㍍ほどの距離に完成済み。関東で2カ所目、光栄プロテック全体で5カ所目の工場。千葉の2工場での増員も視野に入れ、会社全体では3割程度の能力増強となる見通しだ。

新工場の延べ床面積は430平方㍍、長さ6㍍の長尺部品に対応する乾燥炉や仕上げ加工を施す磨き室、関東で初めてのショールーム、商談スペースなどを設ける。

光栄プロテックはホテルや店舗などの建築の内外装や看板に使う金属部材の特殊な塗装や表面処理を手がける。経年変化したような茶褐色を出す「硫化いぶし仕上げ」のほか、ピアノ調、カラークリアなどが強み。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で21年3月期は売り上げを落としたが、足元は外資系ホテルや高級ブティック、オフィスビル向けなどの塗装需要が回復しつつある。関東では能力不足が課題となっていたほか、貨物用昇降機向け長尺部品の需要も出ていたため、大型乾燥炉を持つ新工場を建てた。



12日に稼働する「千葉白井第2工場」